

『おひやくしょうとえんまさま 中国民話』
 きみしま ひさこ／再話
 さとう ちゅうりょう／画 福音館書店
 むかし、えんまさまのおまつりがあった。
 よくばりのえんまさまは、おそなえのすくないおひやくしょうをこらしめようと、こおににいねがみのらないようにまほうをかけさせた。すると…。

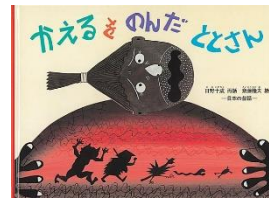
『だいくとおにろく』
 まつい ただし／再話 あかば すえきち／え
 福音館書店
 むかし、とてもながれのはやいおおきなかわがあった。いちばんうでのいいだいくがそこに、はしをかけることになった。だいくがしんぱいになってかわのようすをみていると、かわのなかからおおきなおにがあらわれて…。

『せつぶんのひのおにい』
 あおやま ともみ／作 講談社
 あるいえに、おにのいっかがくらしています。でも、このいえのにんげんには、おにのすがたはみえません。ふだんはのんききまみにくらしているおにだけど、せつぶんのひだけはとてもたいへん！

おに のえほん



幼児向け



『ふくろにいれられたおとこのこ フランス民話』
 やまぐち ともこ／再話
 ほりうち せいいち／画 福音館書店
 ピトシャン・ピトショはふくろにいれられ、オニにさらわれてしまいました。どうしよう！オニのばんごはんにはたべられちゃう！ピトシャン・ピトショはぶじにげだせるのでしょうか？

『かえるをのんだととさん』
 ひの かずなり／再話
 さいとう たかお／絵 福音館書店
 あるひ、ととさんは、はらがいたくなった。おてらのおしょうさまにそうだとすると「それは、はらにむしがいるせいだから、かえるをのむといい」といわれた。ととさんがかえるをのみこむと、はらいたははおさまったが…。

『いっすんぼうし』
 はた こうしろう／著 あすなろ書房
 むかし、おやゆびくらののおおきさのいっすんぼうしというおとこのこがいました。あるひ、いっすんぼうしはおわんのかさに、はしのつえ、こしにはりのかたなをさして、みやこにでかけていきました。